中村俊定文庫
文庫 18
36
3

誹諧發句帳題目録

秋部

初秋　七夕　一葉　秋柳
秋雷　炎扇　躍　相撲
露　夕　萩　秋草
萩　朝顔　木槿　女郎花
苅萱　桔梗　蘭　藤
葛　炎日　稲妻　虫

庵　孰　小夢　文弓
乃　鳴　淵軒　碩
木實　芭蕉　月　菊
楓　冬葉　紅葉　名木紅葉
紅葉舟　九月雨　雜秋

宮城県図書館

誹諧發句帳卷之下

秋

初秋

涼しさのはや秋ぐれ風袋　哀

うき雲や蜘ぐれ風の力筋　釈重

ちらぬふ稚ぐれ風吹きて　月

よろぐれ色も立やの朝秋　貞徳

鼻おきも立てとまるや風の音　同

中村俊定文庫

和ゝくいなを広乃息う妹の風　同

風乃神の袋ゝやあきの空　京次

ゆゝくいに似せ山伏う秋ゝう瑞　幸和

すゝ風やゝ朝立秋の露もゝひ　秀重

雜談乃口も　妹立ゝ　たゝ　宗眉

ゆひゝきのおさゝれゝちゝ朝の秋

七夕

七夕乃琴や雲井ゝ乞巧奠

星に相かなゝ七月乃志ちやゝ　貞徳

七夕ゝふゝとゝれや宵ゝ月　同

織女ゝよりにするやゆく秋　同

七夕乃後おとこゝれや秋ゝひ星　同

七夕ゝ市ゝよゝ迄ゝ迄ゝ契りゝ　同

きゝゝくいうき七夕乃織ゝ　長吉

数ならぬ孫彦星乃ひりゐ　定一
牽牛はなちきりはなやうれは　亦水

出雲にみく

七夕や神帰乃ゝ織をおりて　紀定
七夕はまゝて我やかり枕　日
かちの乃ぶるかけ七夕せんとう　青和
稲妻や七夕はをるおやのとん　宗富
七夕を見てて月は嵐なき　宗弥

七夕いちゝ又月乃もゝめ　宗朋
七夕よ立くゝ向よ扉風　常之
月乃舟七夕よかせあれ川　一村
七夕はりあたむや月乃舟　同
七夕やかけ橋ゝ紅葉　同

一葉

一葉の舟は帆ゝれや荻乃風　貞徳

一茎ふしやさゝの葉あきの風　日

退蓮

相乃茎ふいちらくおとしけるゝ　秋童

帝宮天下一茎ふの蛛のはめ　幸和

一茎ふの舟乃帆縄ゝ糸柳　正亜

一茎ふとゝもちるゝ不同ゝ　春友

秋柳

蛛ハ狂柳　此気力　篠茎ふゝ　一石

秋風て　髮そりこ　はて柳ゝ　氏竟

蛛ハ貝ゝ柳乃ゝ　ゝや　ゝ　釈亜

金色ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　正亜

ちるまゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　柳ゝ　宗冨

秋蛍

人むらゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　徳元

冨士やの吹寄せの風乃口　武堂

妹扇

秋きくに詠しも左扇哉

ゆ朝や妹露と扇堂こゝろ　家久

妹風乃くていあふきの別哉　一西

皷誓吉すゝ人乃をとゝて

ふつゝよ習てをゝ扇ゝ哉　徳

なしめる扇もい風やをきつゝ　幸和

躍

夕ゝ乃皆あき夜や本曽地ゝ

百とせ乃姥おも小町地ゝ哉　貞徳

あいつま小町地ゝや伊勢踊

玉ゝよ月元乃ゝの本曽踊　徳

ゝも見ゝゝ見月ゝ躍哉

彫殺うちておとるやうんれくが　遠可
曜ひやしそろへて殺きやかう殺　幸和
太殺うくくしくもやて八会仰頭ば　宗富
おとる和よきこきりこれ殺　月

相撲

錦前園白川うて

白川のうくくしくとるてまひが　重孔

露

七宝乃玉やまく登れ花乃露
　追善
神ちりやかろうと露のむ冬の　利清
殊勝玉う仏乃前乃露　青人
　追善
ち人乃遠山寺や神れ露　長吉

尺けとや木綿よりかゝる露の玉　玄札
芦の葉の露に連ゝ乃眼玉　正巫
葉ゝよ迄いとゝ乃ゝ油ゝこ波の露　幸和
月影て水とる玉ゝあもの露　永巫
如意掃て秋音草乃露ゝ玉　秋重
風ふきむすなれや草の露　璧

あ乃まゝ〳〵行とて

袖も乾朝露をゝひする鞠哉　一村

露霧

立ちゝく雾や一天は海浪　伊勢代伝乃人やまひ

いへさりける時

雲雨をおもゝひのはやおいせ屋　貞徳
出てゝよ立ハて地乃ちきわゝ　重頼
いかれりゝ毎ゝあけよ雾梅　宗
はかや詠文とる乃雾乃海　秋重

遊子を

たゝきやゝ雪に消よかく迷ふ　同

雪乃海よ世界乃りの八人魚ぶ　幸和

こる形をふく雪ふう重き乳

雪ぬ京むすふや又せあるる形山　同

形や山乃美川もるゝに雪の海　良昌

洗ゆゝ形ゝ山も又せぬ雪乃海　宗次

萩

秋風乃定宿るれや萩ぬ形り　貞徳

萩と杉や弟や木の中ぬ風やゝ　同

伊形ふゝ

ゝ風萩と伊形あゝひう杉ぬ形り　重乳

炉末ぬと東内するや萩乃形り　同

醫者なゝて風やおきうぬ杉形り　宗山

風乃声と何を論俊て萩ぬ形り　西重

秋もきてさゝやく花を萩の葉　素堂

秋草

おきふする蓼やいろ〳〵かる錦
さゝ蟲やはもを一面芝生
はえ出るくゝ人もくいぬや犬蓼
秋乃野ふみいろふまてふ蓼　改正
赤きれと鎖ゝ流ぬいちゐ哉　貞徳

野へ乃秋も立てゝ分り人すまゝの蓼　京丸
大蓼ゝ旬うえかるゝも摘ゝ哉　同
〳〵かれ〳〵蓼ふも尺〳〵り鬼薊　徳元
水ゝゝきうめく露乃かゝ蓼　貞徳
ちゝ大蓼の宮に正露やむやきえ　同
蓼の野ゝ蓼ぬ持正て犬ゝ草　素人
蓼をゝれて露やそめもの蓼家ゝ
花乃白ひ〳〵と分や薗乃内　高正

秋風よきてこきすゝや鶏頭花　仙竜

妹の聖や風よ尺これ乃花軍　長吉

小車のくさひらやゆを仙翁花　幸和

むしくよるやゆ種北如むし乃　宗富

夕付や花よりくいつとゆ乃　家竜

迴文

ゆらめ小聖ゆ花くれもゆ　絮竜

花乃夕も如けやひるにむゆき　宗弟

降り花よ出せよ庭乃風車　改伸

はなゝ蘭まきて尺よ小車北花壁　京徐

蟷螂ゆ出る小車乃半枝ゆ　長運

風よ花ちる小車いかゝ踊北　一村

風よまゝ花もあゆ乃ゆ香甲　同

萩

黄乃花くゝ小萩てゝつ聖ゝ北

まあよう〳〵見て萩やはぎ宿屋

露かけて咲すゝきの花野哉　徳元

むら〳〵はきゝ乃きやさん乃後萩垣　貞徳

くれなゐ乃ゝやけ〳〵萩乃色　重章

馬庸若や打弱はきゝ庵の菜　重頼

露乃よりそゝてかゝる小萩哉　利清

萩の花こすひちきん宮月夜　貞徳

萩さるお花乃姿や見るゝ一瓶　同

萩よ吹風やふるくむらすゝ　紀定

ゝゝくゝ萩や蔦乃蜘乃糸　同

大風よ小萩やこけるかゝ錦　幸和

すゝもゝ風かゝふ小萩乃　紀正

ちらぬまやみるまねゝきの花ん　宗屑

むらはきゝ条をゝめたのやゝ　同

はひおゝりすゝ萩かゝきゝあ　志海

すゝ萩や鞠乃かゝりゝ露ゝひ　宗系

京尼と志やうくゝいたる萩もゝ　子伝

朝顔

夕露に朝うかあくふる水うち
小車に咲くかまくや牽牛も　貞徳
朝顔乃白きや露乃落けさう　吉久
白露やゆふ朝うの花のあせ　宗
おなきの星ゝ咲や牽牛花　竹堂

朝顔より出くる水瘡や露乃玉　京礼
朝顔のけいひのしあかゝ家　長運
朝顔よ志いる花乃日ケ小　重勝
朝ゝやひまけ　むんゆる花はき　宗冒
朝顔よゆまちゝ露ゝくゝ　知叙
朝顔を出ぬ〜たいゝちやゝ小　幸和
出者ゝや朝顔はゆき宿花庭　一村

本榊

位あるむくげの花や床乃上　寿

咲ゆゑに来迄もむくげ哉　繁昌

名ゆゑて花もおい出るむくげ哉　常久

咲むをとりくむ〳〵むくげ哉　一村

花園にむくげ乃ゑめ内裏哉　同

女郎花

男山へ多ゆかうとそ女郎も　徳元

女郎むちりおも男やまめ哉　三家

形見乃ふけいくよゆや女郎も　貞徒

尺ておちぬお俤あ〳〵女花　素軒

僧服と並い能う女郎も　教之

男ともよりてちきるや女郎花　彩之

女郎むまゆはおちよ松ゆう　一村

苅萱

かる萱やにすの道心もうけさ　貞徳

くるかやいふ毛用乃鶴の名くそ　契重

桔梗

聖あそひや花すり衣桔梗笠　徳元

花よいつゝ行てきくやう　重頼

白露もきてやうに立やなりけむ　政仁公

蘭

我も加ゝ人もかくこんちりうち　宗友

聖あそひよ誘うきそめ　長運

園乃夜も香てやまん花盛　正徳

風よ露ちしゝ紋ふちもなか　昌

秋風よ形やうん菊の花軍　正重

燃風よ腸をおしすゝ　氏（天子集二氏童トアリ）

夏露乃恩礼儀ゝ　貞徳

芳野すらんきくやあさの狐父　宗祇
あちこちに落やらんきく垂穂月
花乃ひもとくやとうすや萩と夜　忠俊
似今やむとけれ乃萩と夜一村

落

もとゝ切れ花やちらんと萩　正利
ちる露の玉むきひせよ糸萩　清一

花軍ちらむすゝ乃や撰萩　正直
ゆる蝶や乃花ゝ袖のちんゝ　東軒
露の玉を殊数よ佐ゆく糸萩　吉久
いゆ〳〵乃ちゝ家れ名ゝや萩夜　宗周
萩ちゝ夜ゆりんためやゝて萩　吉厚
小車よすれくかゝや糸萩　正重
ちり葉を佐ちきゝをすや糸萩　章〳〵
ちゝ露をむちんてきけよ糸萩　由正

萱

花ちりやくてよれる萱たゝこ
丸き露ふんだるもの玉萱原　貞徳
くてゐためめ人ゝ〻みよ萱さん　重頼
燒風やうゝ吹くへて萱ち爲　友春

秋田

くひまきて田よくいゝやる屋　貞徳
ちゝ

稗摩のみの田ハ色も換地ゝ　友春
山田ゝる僧都ハ白ゝハ姿ハ　同
叩ゝぬ百ハ走ゝ老ゝ乃山田ハ　徳元
刈まくも山田あ月ゝる俗ハ　重徳
さゝ摩も皆ゝ生る田ゝハ　氏重
長ハやゝ色ゝ生ゝて刈田ハ　同
燒の田八まんおゝいゝさゝハ　重頼
秋の田よ風や吹くもゝ　幸和

稲妻

稲妻れ杉のけ乃てやよひ星 良徳
いろ乃ち乃も光源氏 うきくれ 定 れ
稲妻れひろ乃ハ雲乃ゑとん 叔重
いな津乃ハ霄乃乃れちきり 宗屋
稲妻ハ雲よりちく寸 花火 友甫

虫

きき和やれよ方をもむきろくれ
木も草もいろむや秋の虫ひも
竹虫れ草まおとるうよくこ月を 虫
ちくおりハ鳴や虫狩を和乃 良徳
ひとうせとちくく鳴やきれくそ 月

或亭ゆく

蛬むしを中や付ゑれちろの 月
秋の野をるようけてきく虫籠 八月

ひえよりやおこる聖京の虫哉 同
さく虫は蕎麦一対乃ちからかな 同
老られぬいとくるしぶ虫哉 同
夕露は聖にひしてや虫乃哉 利法
行秋よとりけ虫乃哉ちかふ 一正
吉せぬ地よさひたくう響虫 貞徳
さりけ木の本やあくすの秋の哉 利房
さらけりけるはやまとふ糸薄 叙竜

弱ふきの影ふよそひちくや響虫 同
行虫乃やとる蕎の羽落ふ 同
さくさあけ弓や花は虫乃哉 同
松虫分とんと立りけり哉と 同

迴文

のきにんは虫は蕎乃はむむらはき聖 同
鳴虫よのまする露は虫乃哉 改正
も世をいとふ聖へ乃かるうち 同

目

月を見ぬめ秋をまつよもの春　幸和

松虫や吹こむ風のうら山　同

なく声もなほ似て聞きいとゞ同

きりぎりすとまる草葉ふもとめに　常端

玉虫はてうちうちんやせんかつ草　宗弘

露の露ハ吹出て更ぬ秋ぞ　宗祐

なけやちゝけちるまでいたるをきめも　宗祐

りてる月をもとめよ　良永

起きてちぬ虫鳴ぬ夕しぬ　一村

鹿

ひとゝおりゝいねの中なる庵ぬ起　貞徳

かいろといふゆゝきをや庵の起　同

くゝりもの氣の茅ぶ庵の起　同

起きゝいぬ狂たるへきこゑぶ　同

屋ゝるおもあたくゝの笛ぬ起　同

麻笥やそやは狸乃まくつゝ　徳元
ふしとへやかいらふと鳴麻蚊帳　同
月よ却かそへんたゝ乃十六夜　釈意
萩の枝よ月をする麻や綿皮　同
鬱ふしを志ゝむ麻や猩皮　意礼
あふ時先人ゑまきや麻の皮　宗留
麻乃音もるくゝれひけ角豆　同
かせきとて猟師い麻やいるき山　幸和

さをしかのいる野あふちもあをつ茂　西亜

鶉

くさいとるけやひろ野ゝ鶉　貞徳
一却おもり尾もなき鶉ゝ　同
浅茅ゝもたくいくひと鳴鶉ゝ　同
野も高ゝうま速懐くとゝ鶉　意次
出帰ゝをの尾よ似ぬ鶉ゝ　意礼

うつまきに柄もあさし蝶の好　紫雀
くたいとひくく秋を尾ふつけ　鶴　幸和
ゆまあくなくふけ更　鶴　松吉
鶴衣くしいそたつすそ形ふ　殿順
毋伝ちくいとくとく鶴　宗宿

小蝶

春あらしにはふ孤ふ小蝶ふ　来友

あいす迷いそ四やの蝶ふ　体青　青
数生をそるハ法ふ小蝶物　蓮西
桿ふして名をさすもの蝶ふ　紫童
蝶人乃ぬふて行やうつ茅　円
まあきあ小蝶笹をはふ　幸和

冬雪

乱れ炉ちうや四十ち　徳元

綿木綿の夜乃とまりに成あ
夜乃を月よりぬ人のひろに 在光

乃

春よりわらはんも行雲井に
桜よりうてゆるかんをいきせば 貞徳
露と霜とをやせるも服班 同
夜月よりくるやの乃きやはひ 重時

夜はもみてて送る乃出に 変友
夕雲よ雲井乃乃やあま衣 教重
月乃毋の桜よりれ天使乃 同
ふ乃をを大さとあめや月紅 同
花乃乃ちあやの夜のちし出 同
雲乃海およきわるる天使乃 同
ちちもろ乃んよ乃八百矢一節 同
乃い夜字そやや夜乃ろもり 同

ゑのこしとうてあちはるかに
わたとてはるかなる天の川　紀貫
乃ゑはれわるきてくやむすひ文　宗砌
かり金ハ後ハ大俵ふ料理乃　宗味
うきまの叩りまをゑ乃矢根ふ　大宣
乃ゑや雲乃衣乃ちゝ俵　盛重
起きけハ宵ゑ二度ひくふ　日
夢風ふく

きくうんをこけ乃てゑ乃料理　宗彩
六九花きゑも旅さを焼乃　日
らくかん乃中に芋や番付乃　日
ひろくと回よらくかん紙乃ふ　二亟
棹よりて翁をおもてうた乃　幸和
はるひ行乃やおうん北虹乃宵　日
道筋ふ雲ゑけはゝわる乃　日
月ふておれ村雨乃ちゝ　日

乃ゑをもむてのゑのてんから 宗留
月とさよ出会ーらや天ほ乃月
ゑ新ハそまま乃のもゆゑぶ 惟貞
春てかゝん雲井ゆ乃字ぶ 一村

略

ゆきハ大文人乃者ゑ郎 徳元
うりかゑもわきん略ゆそきぶ 休音

（ゆ・よか）
よきゑきよきてゑをゆ沒ゑぶ 元利
うゑ略乃羽めけハをゆき五月ぶ 幸和
五かゆゑくちとゝゑきの羽ゑぶ 円
ゆゝゑハゑきゑきはの猟師ぶ 忠国

渋紙

さひ紙の隙ゝよゝをとゝ石硯ぶ 光有
筆行ハ爰やうきゝ世乃ゑの鉢 元利

碓

かくきぬや音も叩りきこゆ
こゑふもうやさいこの麻衣　貞徳
まきてうつハ仕立きぬる　同
たこひろ〻川おひ〻く衣ル　同
きけハ爰つちみ〻かきぬる　同
ゑてよまきよこたちてお碓ル　芝友
うはの小ゑもきぬ〻おとりル　幸和

折敷〻くハ伝もきぬ〻ゆ折敷ル　同

木實

えゑてくるを折栗の土産ル
秀吉公入唐乃時
かく〻ちゆきこハやうてきこくル
伝授をふハかこ〻けちゆ此ゆ
おゆ名をくるやとものえんさ栃

古来より尺しゝる柿は朱筆か

大学へいゝすとかま迄ときん柿

茶入ちらしてお菓子にもよき 京柿

植し庭へ出山ゝしやくゝされ木

山ゝしも付てまいるや姫くるみ 徳元

かきも付くるゝ忍む栗や冬花 同

讃岐国にて

所まてくるをやさぬき名処柿 貞継

さく花ちるや下柿なしれ枝 利清

山里やきさよ木練おとせ柿 道職

旅椎は車ほてくふお菓子かな 京利

追善

是はなしなしおりれと世君か 同

九月母や逢ず当ちれ柿袋 愛友

老よりや庭おりてちる一位のこ 叔重

むくかゝれぬや柿なゝれ皮 同

山ゝよりる栗やふくとり　孝久
栗栗もかをやはらんをくる山　同
ますゝもり為てゑのまゝ柚の外　幸和
ゑ[illegible]ゝたをんきりにせよ東焚　同
よくふるゝ[illegible]おくりは二子の外　同
とる榜めうゑんや先ゝりたは　同
志川けるきまやとんくりぬふにし　政順
本の実をもゆする風の力ゑ　良昌

（マヽ。字磨滅セシカ）

ぬうゝるてゝお栗のこれとうの粉
本の実迄市ゑ行ゝりて神宝器　宗弟
枝打やもゝまゝ爺ゝ榜　同
伊丹榜よ位やまけぬ八ゑ子　長運
山ゝもはゝとゝんゆるこのゝの　常久
盃ようけて香をきくゝる柚の　宗寿
ゑゝ乃このゝれ菓子やゝり次第　忠成
めつゝ椎菓子を出せゝこのゝの　定光

本すゝとやわらとんすゝはなるゝき 設倫
物数奇はのこといとん 東雲 圭孤
ちゝ祢ともものこたくゝ小名ゝ 永竜
おら推ハ月ちひ君はやけゝ 一村
文ゝゝゝ出ぬひゝゝ上ゝ 日
いやといへとあてくゝすゝのゝ 同

芭蕉

うとんけと咲る花はせをゝ 貞徳
月氣とゝ扇きりするもせをゝ 執筆
ひゝめゝ笠そ芭蕉乃扇の 同
うとんけやもせをきふをゝ 宗宿

月

五月雨を月笠はゝ月影
月くまて雲ゝそ月十八夜

兵庫ふく

須磨の浦兵庫はの月と嵐の雲

月くもきれぬ今宵の月やさくら題

月の絵ハうつもと二枚屏風ハ

月は秋うつひくアせよかゝ夏

ゑ明ハ山へいらう乃ちくれらふ

雲くゝる月や高砂くゝ乃海

秋月よと月も笠めく光りハ

村雲やちらかゝ月は笠ふくゝ

ゐんこう乃ゑや七月は秋と庭

酒のまあ可盃そ乃月

燈風を出ハや月乃太うちも　貝殻

雲ハ歌風ハお月は味方ハ日

こちむきて入る月や風さゝ日

かけ月や金乃盃は秋乃月日

盃めそハおとゝんたゝ乃盃は月日

ひるさのやむいとろ月は初せぶ月
山姫乃海原や月乃大うゝ尺月
ひゝけて入日の佐ゝ三ゝ舟月
鈴付て為巻をゝや三ゝ舟月
ゆゝしく八神名や神ゝふ月乃弓月
三ゝ月乃弓もているやとり北方月
天竺とゝふゝや月乃兎乃毛月
雲八塩の巳む月は蛙ゝ那月

月乃罰おゝゝや雲に燈の風月
皆人のひゝ神のゝゝや秋は月月
梵天は雲ゝ燈ゝ空乃月月
山乃猟ハお月は月のちんとゝ月
月は秋も友ゝ月迷ハ人きや月
夜の砂も皆ゝゝ月は月月
空乃海はゝいはゝゝゝや三ゝ月月
三ゝ月や鼠屋いねゝ雪はとひ月

風や息月を出る山の神 同

行ちらす雲の月やさはる 同

せんとうハかつをおとこの月哉 同

露霜に月ぬるるの乃ちれふ 同

十四日

ち月乃月うをするやすす月 同 拾

十又拾

照月もちよひとそれの業 同

雲雀や芋名月乃きあつき 同

人〻双六をうつを見く

うてやうてお月もお一十六歩 同

いさよひ月ぬ中ての上戸哉 同

十三拾月餞

ちすくするや栗名月ぬ雲ひ 同

ちこるハ栗名月乃光る 同

雲ちらふ嵐や月ぬかる見とき 徳元

猶も秋乃影をや胸よりも月秋日
池月はあんとんけちひろうる寿
村やこはまんさてる月乃天麓ル日

名月よ

名月をむてんよかくてゐ秋日

十三秋

月よもひいてこひろひる男日

十又秋月鉦よ

まんまるの月きめちゃ秋食ル　芳友
やとちりめをちり月乃まとゑ日
月とは秋めくるい車とけいか日

十四日よ

今宵よちちきろやあき秋月秋日

名月よ

月も名よあるゑ立て笠をゆ日
まる月ハ扇ちーうまゐ川　蕉

西へ行月乃まるさやの陰隠す　日

名月よ

めい月乃俊よりうつ男なる　日

多や久ゝ多ゝ多ゝ月ゝさいりゆ　体甫

月餞ち

多ち月ハ上ゝ月もよき取合ゆ　日

二階座敷ふゝ

三界も二階もてゝ月乃ゆ　玄札

是ひとの引ちり月乃めあてゆ　宗姫

月ハ是世界乃ひゝく続ゝ　宗久

水の月ハ品二つ梅乃かゝ乃ゆ　不東

釣竹や月よりへかゝ乃ゆ　日

うき雲ゝやゝゝ久月乃上つゝ　冨沢

月是い天乃ゝひゝゝ乃金星ゆ　日

いる山ハ引ちり月乃まも場ゆ　桑枝

ゝゝ月天地和合乃ひゝゝゆ　雲

月迄ハ地乃底ゟ月も出水ル 正友

うすくゝつ雲ゟ月ゆく夫ゟ仏

初地の月ハ海珠のひゝり家 武法

三界を海りこゝゟ乃月日ル 能原

月ハ月ハ月ハ月ハ月ハ入久ゝ那 四京

又月やなるあ入ハ宮乃うち 教重

月や車めくるもまて牛此時 同

月乃影ハ高ル高ル雲此時 同

月乃雲ゟの雲に出ゝり月乃乎 同

舞ゟて三回一や京此月 同

十四又や月乃影さへ丸しゝい 同

庚まゝ此月をそ男ゆまと宮 同

雲の波ゝゟや月乃白髪 同

名月よ

月よ芋迄て名ゝゟゝ雪ル 同

月も名も四方にてゝゟゝ雪ル 同

久月乃きくとりしやたそ古日
天のさしは肺乃勝名や三九月日
月乃影見さりこ也まと屬日
月影や人乃ふくまあう出物日
月星や雲見も袖はとん面日

石山ふく

石山月ゝや光源氏酒

お雲国ふく

月を紋よるや弟子浦乃浪日

国出湯ふく

茱湯て月とや見ぐ見ぬりは
雲乃海えこき出あ月乃舟日
雲よ月かくれ分りかつ袋日
山ゝ孝入をする京乃月日

庚申ゝ

月影をまくゝ落ゝやゝ眼日

雲や紙月い絵る似てすき屋 月
鍵乃穴のそく月乃嵐哉 月

名月よ

月〳〵や月い月やあの月は
絵師もやいそ宵乃月ぬるほ 月
寄乃海ぬ花ちる月いそ〳〵けふ 月
菊月や一夏ひ〳〵〳〵三九度 月
山〳〵をえせる月やを目覚 月

雲よ風をえせる月や帆行丹 月
月影かゝりーせえ戸帳ぶ 月
月影や大乃川影乃あ車 月
宗乃内へ影〳〵へよ宗乃月 月
月影乃さ〳〵てさ〳〵迷ぬ障子ぶ 月

侯城みゝ

月さ〳〵ぬ里や小金井多孤宮 月

十三夜

二子ちる栗めい月乃新ちる日

十三夜

ものゝ尺ゝハ二度ひりくりて秋の月　日

横雲ハ月をもてこゝ成　正信

横雲ハいとゝちまきもれや月影　紫

幾あの月をまゝ〻る行ゝふ　吉次

天衣ゆけもて月光をさゝ　政重

柄乃ちきをちもとハいた月盛　參

山乃影ゆこゆひ乃月ゝ三ゝ月　四重

三ゝ月ハちゝ〻ゝ川ゝ後乃　日

山乃ゝよかゝちきゝ乃月和　日

雲水乃面乃釣針ゝ三ゝ月　日

信濃國みゝく

月も孤をたしゝる山乃くゝりゝ　日

月ハゝくゝ面ゝちまち出ん十七夜　日

いさよひ乃月ハ斗松乃ゝ系　日

遠く見る文月乃ひろ海 良徳

夏雲や望め月は加て迷裏 同

絶ゑ〳〵て見あや天乃月は新 同

菊月乃ほかミかあやし宮は星 同

豊岡ゆく

月代はあみくゝ峯は法光ル 同

白川を加ふ紅ゆゑ乃月 意新

ゆゑ〳〵男小兵ふ対ゑ月乃弓 同

天衣見く狩乃きや三ゑ月 同

山乃ゆ徒意とる夕月紅 同

天ゑ〳〵使船とゆれ月乃ゑ 同

唐まくも日本一は月紅ル 同

海月いゆ法ゆおとこ乃命社ル 同

梅丸ハ俳ゆおとこゆ月乃弁 同

月ゑハ見くくハれぬあや色月 紅 同

月待ゑ

待人ハお新かゝる月和歌

名月よ

名月乃名月一歌や芋かゝ日

十三和

くもるなやむさし九月廿三和日

万灯ゝ盆乃月宗俊

天ゝ

ゝ乃名月ゝ徳ゝ三名月日

東月ゝん番よゝる破き家幸和

月星ハてゝ戸間ゝ和書ゝ日

月ゝゝゝゝ雲ゝゝゝゝ日

文月をゝしこめゝる面和日

おゝなゝの月ゝの雲ゝ日

三ゝ月乃ゝゝゝゝゝ雲ゝ袖日

雲ゝ浪をゝゝゝ月ゝゝゝ日

むゝ雲ハ月乃ゝゝゝの袋ゝ日

ときゝてゝ月ゝゝゝゝゝ日

雲ハ幕仮と八くしら月と見日

月ゝもゝ影をあらふや池乃浪日

雲間より出る月や水ぬき玉日

月ゝてゝくゝい雲ぬ錦ゝ日

天人乃舞扇や捨ての月日

名月よ

いとの月もくゝや巻こぬ空月和日

日月餘よ

もち月や寺くすもゝ実ぬの原日

雲や海とれ稲と巻むの月ぬ舟日

紀州ふく

出山の月をそれ巻やら乃出る日

名月乃影や二八十六和日

酒のゝて皆ぬきよひ乃月乃京　良昌

村雲よかゝむや月ぬ稲ゝ舞一心

名月ゝ行とく

月出くひくきの雁や後ゝ後　昌

十三夜

もち月よかるゝハ栗ばかりの月　同

山肩よかれる月ハ目かるゝ　氏重

追善

西行月や弘誓ばかりゝ永　同

天乃原よ充海ゝさゝもち月　同

くもるぬや月乃かゝ見ば天下一　長吉

池よりゝるお月や何乃底さろ　同

寺にゝゝ月ハ羅漢ゝ十六夜　同

ゝ人乃衣文ゝ見ゝ京ば月　西信

月入くゝゝ見ゝ乃孤ゝ那　西章

ゆりこめ乃弓張月ゝ雲ば中　同

雲水ばゝ掃ゝれや三ゝ乃月　是吉

名月よ

天よ名ばゝきをとし弟月　定一

名月よ

芋もまをうめ、三夕乃月和尚　西武

十三和

ゝ雪ゝ月乃影ゝやまあひとこ　氏吉

月乃影をあゝひゝ尺せよ水院　知親

月よ雲かゝらぬそゝへもゝき是　麦人

天ゝ下をさゝ照りゝゝ月盤　宗兵

尺ゝ月乃影よもちあや和ひ星月

月餅よ

ちゝすゝ実ゝ月ゝ嵐ゝ月

うゝ雲ゝ月ゝ尺ゝゝ月和月

稲妻乃おとこゝ月乃かつゝ林月

弓張ゝ月や入聖ゝ矢ゝ茅月

かゝゝ雲ゝ尺ひゝふゝゝや月乃影　玉成

挑灯乃ひ風ゝ吹ゝ月和ゝ月

月のあゝて笠おきのゝる風ゝ月　正竜

詠こ尺ろい芽名月乃すいきゝ宗旅

文月とゝんるゝ花咲のいろゝゝ日

月新をのせくまるや車帆日

月新乃出るいあ乃乃かゝ乃ゝ　三亞

風舟ハ月ゝも雲やむゝすゝ日

ゝんこうもえゝとるまひて舟日

旗雲をゝつるや月乃舟軍　宗富

月とゝやさゝゝ日ゝて追ほゝ日

月新や脇てとゝる山乃腰　常吉

天道てゝるあゝあゝ月ゝ新　常久

八潮乃浦ゝゝ

三ゝ月の海ゝゝるや弓ゝゝ　照星

天國乃小長刀ゝゝ三ゝ月日

てゝ戸の番弓ゝれゝ三ゝ月日

天乃あの月ハてゝころゝゝゝ日

絵やゝゝゝ月乃扇ゝかすゝ雲日

十三夜

月をまちよいて月見るを宵に　新宮

月乃新をなつる八雲はなるるに　改公

法華家の仏や月は新法師　同

上と下と新とく乃月つくに　同

はくてはくてはくて行とて

初塩と海と月とやさしこうう　嵐竜

祝くつくやはなは月はしく　松　同

天乃戸乃鍵とや見くん三夕月　宗春

月かくれむ〻雲をふ掛ものふ　竹竜

月こよひ白玉天乃手あめに　宗朋

武蔵野八大さう月はひろに　同

勝なくてを宵乃月や七五三　日

まんまるおとうひちや月は新　同

ちゃめゆる矢ゝり月は矢ゝに　永竜

月みて出ハを宵乃月の出　乃に　同

月影よ人ふくき抽やよひ星　青空
山こしの月乃光りや初陰　忠海
そらちをもう川々こ乃星月夜　當亜
先ひくき月こんぬめの中原　長運
名月とぬはらの乃ひろ原　青空
ひとり秋よ袖さて入よ月夜　一村
水々人ミてやまん乃月の影　同
人てるをも浦々かきうち月夜　同

文月をいくく文殿々乃雲　同
よむくやこ三文乃月夜哉　同

十二夜

まあよ人る月こそよけ迄十二夜　同
むひ人ん月々後宮乃うち　同

菊

淋とちるや花白さて此菊乃側

九月

余所ながらもさそはるゝのゝや菊花　竹童

あきいちはちよ白きかれよや翁草　惟貞

朝露いちりやたゝまと翁草　益光

花いはちりやたゝまの翁草　西武

酔人やあゝめにも菊花酒　氏吉

せんさいよたゝくるやおきな草　吉長

露や昼わきこ白きて菊花酒

遠寿は法白なれや草の露　氏朝

君ゝ代てくせませ垣丈菊乃花　政昌

花入や宮ばり乃おき風草　長吉

皆我草ハ十番切よ草もをけ　李友

ま也垣い草丈白ひ乃ゆせこゝゝ　教之

摘神の白ひ乃むら草丈露　同

得ゝ乃見ゝれとるや菊乃酒　同

山の色ゝ居や赤人草丈け　同

蝶の移る菊ハふかひ乃枕うら　同

花よ移る胡蝶や菊ハ酒の酔　正巫

朝露乃匂ひハ菊乃よせいぶ　南巫

山ゟ流のこよせんきく酒　重牧

曽我菊乃そ名や五郎　市象　同

露よころひ日新や又おきる菊　華和

菊月乃ひ方よ薫する新もち　同

おりて市ゟ菊よ久香や深小袖　同

くむ友よ[illegible]そう名をや菊水　宗祐

摘乃こせ又こう菊乃花の宿　同

きちうこまよ[illegible]てもおるハ小菊ゟ　壱人

よるくゟや祢覓乃床ハおきち菊　宗弟

天人乃新匂ちるやし女草　同

一文字にさすハ力ゟ菊乃枝　同

他所すていぬや白をきくハ宿　忠海

大白ハさくも尺ゟや菊ハ花　宗考

菊乃花もさきつゝやせんさやうしひ　師正

七重八重一重や菊は十六重　宗眉

ぬきうちの刀よりすゝ菊酒の白ひか　同

金屏乃いさゝ庭乃菊乃露　彦人

沉香のくゆんも白ひの菊庭ふ　同

菊酒ハ花さくまてやすいやうひ　都弓

時雨きて袋やぬき墜菊の色　同

大さん小やゆかをりや菊の庭　正之

耳なりて鼻ま白ひやきく妙庭　重將

ぬりてくゝへこゝる月貫ぬ菊ぬ花　宗朋

名まつて菊いくきみ背付ふ　一村

楓

染まして日まく多をかえて小

吹風ぬさはうをしる楓都

風屋おをきすや蛾ぬ村ぬ葉　良まち

かりて見よおく〜系ふよかうるを　徳元
何の木も風の木のそれハ枫ノ木　教至
風をいろこあるよをするハ枫ノ木　同

伊勢ものがたり

神風よぬきおりむ蜘のふ　幸和
てうちくするくもハ枫ノ木　助重
逆霜のちるや蜘のたまきき　改公
蜘のふもるあやかけよ小財の　正重

系とりう蜘の巣かくる枫ノ木　松吉
紅葉よりてかちもあらしてふ　常陽

冬義ふ

花のいろはちりめるを和歌ふ
かけよきいろはちりめる寺の庭
もよますすとかふよやさんいろはふ　貞徳
山寺ふいろはるゝいあ木ゝ庭　寿可

ちりぬるをかくハ楓のいろはにホ　教至

西四条殿にて会ある

行幸のいろともとめよ門田の稲　武重

おく山ハ雲ふかくて見るいろはにホ　元行

ちりぬるを迷ハ山もあさきみのいろにホ　同

ちりぬるハ百千万のいろもにホ　永徳

立霞ハえひもせすていろはにホ　重教

いろはにもかゝめや人のもちてあるに　南立

ちりぬるをいろはにちりぬるを或本紅葉　和

身捨も先ん陳をふいろはにホ　同

名木紅葉

陳多は世くめるてのあるにホ

朱うるしもいろてめるて世の人

あるにふかくて花をやる桜の

我と所をきしる庵ふる梅にホ　同

やうもあのくあり榜歌 同

うき蘇と新をもあらめ柏うち 同

枫さへまんけうしめみちぶ 了俱

神垣のぬいう杉をあ苔うう 良経

栗の赤ハあ歌ふせぬ乃もに赤ぶ 氏重

象榜をそむる時あや 双あ 長者

河内あふく

蘇や実榜乃もみちて錦郡 貞継

是や又秋ハ歌ふ乃かもちく 重孝

きくきくやうあ多うり榜歌 宗留

[illegible]

上戸下戸あ歌や村紅葉

義照ある色へあ歌ふ

法出乃時法盃の中へ歌

ふううひうを

おくよに一首ふすへて有る尾花紅葉ふ小玄利
時雨集てかさすれ紅葉ふや朱から笠の童
山路の赤まへれやトのみち市付
立田姫くもやさはそ下紅葉ふ身徳
紅葉こハちらぬ妹ちりぬ炎ふ日
多おしめ之こうようれ末乃ハ日
酒や時雨のめいもみちぬ人ふ日
山や古に弾葉て行八日新日

史と尺ゆるぬふ乃面ハ油乃郷日
妹風なたんう山れうれき日
あしけちき風やこすゑを一すちち盛況
百紅葉の面くまんの人ち乃酒のうな寿
葉ふや山乃錦れ多も朱買氏休甫
紅葉ふの錦ハ谷乃戸帳ふ文性
山口も風ふをさしるる紅葉ふ与重
おりきして実山口乃走ふる紅葉 正爰

立田姫入唐（さうかう）錦　体音

冬を尽くさぬ庭の村雨ふる　釈重

山の腰の枝珊瑚樹こいろふる　同

冬なほ色さめぬ水　同

朱や丹に絵のよかく木の露時雨　同

この葉乃冬とい定家ゆ水　同

冬ゆえむ紅葉や露ゆめ迷ん　一心

松に市ゆ雪ふるこゝ久日水　宗俊

露の枝雪ふるや二重除　政昌

常盤木ゆ紅葉ふ屏風乃絵　西信

中ゆひとゝ木ゆ下ゆ葉　重次

雪ふるゆ

雪ふるゝ八敷乃滝の走ゝ入ゆ　利房

和刑　ゆゝ

冬付なるゝもゝゝやゆ思　正重

冬ゝゆ木ゆ時雨乃深和歌　宗勇

鶯乃とうやゝ春ふる川岡　幸和

いくしかもおうようそめよ村時雨　同

源氏酒よ醉てや冬ゝ春ふる頃　同

或宮おもゝ

玉垣の多くにめり乃春ふか　同

苔むすゝ乃春や山も春ゝ初　宗春

きゝすれハ未すゝ春を　同

羽二重ハ洗ぬ乃深ぬるみちゝ　宗門

冬ゝ春ふる雪や紋乃苔衣　宗春

白露も朱ゝまゝれ春ゝ一村

春ハ絵の具乃冬とる野山ゝ　同

紅葉ふ鮒

川音乃冬やゝむるゝみち鮒　貞徳

山海ハ孫和ゝれやゝみち鮒　同

汁よせもゝの名をゝけ春鮒　長夫

時雨や海もあかるの天きふ舟　京次
風は浪ちるいろこもみちかふ　古久
舟と見る紅きふ乃枝ふれ　釈重

茸

ちとくへおちるの北嵐茸　貞徳
松茸や海ふけとる人夢中　釈重
辰ふ行くあてふけ北あてふる　同

あてふ茸や宮ふあきふ北露京　同
山寺とんあたのとれ北めち茸　堅
あてふ茸は上ふもる時あふ　京命
猫あ乃朕ふくふや嵐茸　重教
もれとひく酒ふけ有ル　重政
おんきふも有初茸の有ル一村

九月盡

あるひまうけおそれ〳〵ぬるれ　貞徳
いまさらぬるものこゝろ秋ぬれ　叙竜
紅葉ちるやこれ行秋ぬれ　竜孔

雜秋

すあい草にこれを聖〳〵乃月そき　魚名誹諧
猫迫門と云ふ〳〵

猫迫乃〳〵猫せとや秋乃海
大口よりまいるふむせる栗ぬめ
ぬ〳〵や行燈ゝ多ゝ〳〵ゝ赤の長猿

申侍る

さる乃尾もまて尾ゝ多ゝ乃ゝ　時仲
芋ぬよりもちやすいきの露滅　公竜
風ゝ見ゝ〳〵ゝ乃ゝ芋ぬてくきゝ宗竜
芋乃よやすまゝ〳〵ねときぬつき宗竜

山門さわがしてよをやけくぬ芽 同
さそ風も高やと花初の富尾山 同
むすめや芽の子を抱きぬうき幸和
さくらさるはふく風乃くりぶ 同
多ちてあるくめるやむ子酒 同
炉風よるひやしをかけもぶ 同
尼路乃おそれをうたハ僧都ぶ 同
月みしむや香炉ハ烟秋乃風 徳入

そのゝ名ハ解てや赤き鮭魚 同
後生ハ孫の多角のむせうぶ 喜可
御霊祭よ
彩雲てまつる法霊乃氏子乃 同
奥花系金〻時
亀井 (三三) ゝ鶴乃さゝふゝ岡花川 李友
さそせいよをゆるハ盃ハ秋ぶ 同
ゝあ炉風まよくかてハ 同

棚よりくハ実蒲萄酒乃とりバ同
月ハむいやきよき風の秋うち立
山姥とは井よハ名ゆや毎の田服絮
まちきの釵とやいちん妹乃風同
芦乃穂ハ風やゑ毎ゆむ星綿同
ゆさぶりき蒲萄や殊数乃世ゆ棚同
かゝ御自ら稲ゆふ雲乃中同
天人乃楽う妹ゆく風乃音同

芋ゆよも風やゑ毎むきゆうき武者
鈴波はよ見ゆるや芦乃ゆ井政亜
文月乃海ハいくゝかゝ小利房
市る鞠やちむゝ引きゆ衣休音
多りへゆ姫松乃木ハ貞女小重孔
南都まく
蔦ゆふハいくゝ丸立ちゝかゝ同
芦乃穂ハ人を抜ゆ赤綿小繁栄

きぬ屋きいふく祢ゐや草かり　政継
炊風よ立ちくるや雨ろ乳あり　紀正
武士乃家よ庭くゆや蔵菊ちる　彩る
うすちゝてかゝする稲ゝ葉風ゝ　師正
舟ちゝて里にかゝる稲束ゝ　忠尚
扨人よ腰をかゝむるきいてゝふ　月
聖陣とる法々若よすりはねつゝ　麦人
冨士庶乃煙炊ゝ香炉ゝ　長運

ちりよりも名こそ屋ちまあたゝ袋こ正
名ゝいひ川宗も桜ゝ丸きむゝ　尚正
ゐの宗こ屋をくゝゝ志めよあふ　重次
張ゝめやあ庭さもあも風呂あ乃　重成
ゐゝこ屋乃ゝ者を吹ま世祢ゝ風　宗智

右本和家文庫
昭和五年二月二日写了
原本は年号本に依る